令和六年はたちの集い　祝辞

はじめに、元日に発生しました石川県能登地方を震源とする地震により、石川県内・富山県内などにおいて、多くの被害が発生しております。お亡くなりになられた方々に、謹んで哀悼の意を表しますとともに、負傷された方々、住宅被害にあわれた方々などに、心からお見舞いを申し上げます。

さて、令和六年の新春を迎え、本日ここに「はたちの集い」が開催されるにあたり、二十歳（はたち）という人生の節目を迎えられる皆さんに心よりお祝いを申し上げます。

本年は、富山市全体で３，９０１人の方々が二十歳（はたち）を迎えられます。皆さんには、まず、これまで慈しみ育ててくださったご両親をはじめとするご家族ならびに恩師の方々、そして本日こうして祝福してくださる地域の皆さんに、改めて心からの感謝の気持ちを伝えてください。

また、これからは、社会的に自立した個人として認められ、より多くの権利を得るとともに、義務と責任を負うことになります。皆さんには、その重みを今一度認識し、「大人」としての自覚を高めていただきたいと思います。

さて、令和二年一月に国内で最初の新型コロナウイルス感染者が確認されてから三年余りの間、不要不急の外出の自粛やソーシャルディスタンスの確保など、皆さんには、様々な制限をお願いしてきました。地域の行事等も自粛され、地域経済の低迷を余儀なくされましたが、昨年三月にはマスク着用は個人の判断が基本となり、五月には新型コロナウイルス感染症が感染法上５類感染症に位置付けられるなど、少しずつではありますが、コロナ禍前の日常を取り戻せるようになりました。

こうした中で、本市では、昨年四月に「全日本チンドンコンクール」が四年ぶりに開催され、全国のチンドンマンが賑やかなパフォーマンスを披露したほか、七月には、オーバードホール・中ホールの開館、「プロ野球フレッシュオールスター」の十二年ぶりの開催など様々なイベントを行い、地域経済の活性化に努めたところであります。

また本市の政策としては、これまで進めてきたコンパクトシティ政策を深化させ、ＩＣＴ技術等の活用により、市民生活の質や利便性の向上を図る「スマートシティ」の実現を目指すなど、市民の皆さんが未来への夢と希望を抱き、安心して暮らすことのできる「幸せ日本一とやま」に向けて、さまざまな事業に取り組んでまいります。

どうか、皆さんには、ふるさと富山に誇りを持ち、柔軟で豊かな発想と、どんな事にも勇猛果敢に取り組むチャレンジ精神で、これからの人生を力強く前進され、新しい時代を切り拓いていかれることを強く願っております。

結びに、本日のはたちの集いの開催にあたり多大なご尽力を賜りました、地域の皆さんをはじめとする関係各位に深く敬意を表しますとともに、二十歳（はたち）を迎えた皆さんのご健康、ご多幸を心よりお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和６年１月７日　　富山市長　　藤井　裕久